

# 水俣病患者に福音

## 別府の治療、効果あがる

「絶対なおらない」とまでいわれた水俣病の治療に硫黄成分濃縮液がすばらしい効果があることが、別府市九大温研の臨床側ではつぎとめられた。

十月二日に精密な調査資料がまとまるが、治療がわずか二十日間で見立った成果をあげていることから、鉅泥浴治療は水俣病患者にとって大きな福音になることはほぼ間違いないものとみられる。

九大温研（八田秋所長）に水俣市立病院の大橋院長がもとづれ「水俣市立病院に三十八年度中に予算一億円で水俣病患者を治療する市立病院の分臨をつくること

になった。この分臨で治療方針を立てる前に九大温研でテスト的に治療してほしい」と依頼があったのはさき二日、四十六歳の男、二十六歳の女、二十一歳の女、八歳の男計四人が九大温研で治療を受け始めて二十日であらう二十日になる。

治療研究には九大温研の矢野良一教授を中心に全臨をあげて取り組んでいる。

治療方法は最初、二日間水浴で入浴したあと患者の尿のなかから水俣病の原因の水銀を検出を行なった。その後一日置きに四十度

四十二度の鉅泥浴（硫黄成分百

中三、五含有）に前日一回十五分間入浴させ、その際検出した水銀量と淡水の場合とを比較した。

その結果排出された尿五百cc中

八歳の少年は淡水浴の場合、水銀含有量は十ガンマ、鉅泥浴入浴後は百五十ガンマと十五倍の排出量。おとなの場合淡水浴で七十五ガンマ前後、鉅泥浴に入浴後は三百四十八ガンマから四百ガンマの四六倍前後の水銀が排出された。

このように鉅泥浴後の水銀排出量の多いのは鉅泥浴中の硫黄成分が血管の拡張作用をうながし新陳代謝を活発にしたためとみられてい

る。

現在四人の患者はこの鉅泥浴の治療のほかマッサンによる併

用治療を受けているが、このころではこの水銀成分が体内から排出され、しだいに健康を取り戻している。編み物もどうにかできるよ

うになり歩行困難だった少年も手をかしてもらえば歩けるようになった。ことし二月末現在水俣病病者は八十三人でこのうち二十四人が死んでいる。

矢野主任教授の話 予想以上に効果が早く出た。四人の患者とも手足のマヒは徐々になおり精神的にも落ちついてはがらかになった。マヒしていた全身の神経もしだいに回復している。十月二日で二カ月になるテスト的な治療を終わるので、その結果を正式に水俣市立病院に伝えるつもりだ。理論的には鉅泥浴で硫黄成分が水俣病患者の体内から水銀を排出するだろうということは事前にはわかってはいたが、実際問題としてこれほど治療効果があるとは思わなかった。